

坊の在家の履歴について

当部落は大谷口村の小字で昔江戸徳川の頃は岩槻藩に属し、近世に至っては幕府の直轄領になり江戸北町奉行の支配下になって居たようです。明治の世になり廃藩置県が行われて当地は埼玉県北足立郡谷田村大字大谷口坊の在家と呼称され後昭和の時代には浦和町と合併して浦和市となりました。平成年代は大宮市、与野市との合併してさいたま市となり、平成 15 年には政令都市に格上げされ当地区をさいたま市緑区と呼称するようになりました。

大字大谷口字坊の在家と地名は遠く徳川初期の頃から続く固有の地名です。尚坊の在家には小字坊の在家所有の社と墓地他に吉祥寺の末寺がありましたが、明治初めの合社令によって社である稲荷様と権現様は氷川神社に合祀してしまいました。その跡地は不明です。亦神佛分離令によって廃佛棄釈が行われ寺はこわされて薬師堂と地藏堂のみになってしまいました。これに付随する墓地だけが唯一の坊の在家村民持ちの共有地です。

因みに大谷口村は五つに分類されて(坊の在家,細野,東中尾,向,向耕地)それぞれの村持ちの墓地を有しています。また、なかには社と佛堂を持っている部落もありますが合社令、神佛分離令にしたがわなかった部落です。